

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572809382		
法人名	特定非営利活動法人 エヌピーオー社会福祉事業振興会		
事業所名	グループホームすずらん稲川		
所在地	秋田県湯沢市川連町字大館川原120番地		
自己評価作成日	平成29年1月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成29年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちのグループホームすずらん稲川は季節を肌で感じるこの出来る場所にあり、四季折々の風景を楽しむ事ができます。1、2階合わせて18名の利用者様が生活されております。私たちが特に力を入れて取り組んでいるのが外出です。近隣の買い物から海や山へ季節を楽しんでいただく為に、雪の降らない時期に計画を立てております。楽しめる方、そうでない方、様々おられますが写真を撮ってきてホームに帰ってから話に花が咲きます。小さな工夫を職員で出し合い実践し此処で生活されておられる皆様は笑って暮らすことが出来ますように対応に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は食後の後片付け等のできることを無理なく行っており、昼食後に自室で休まれる方もありますが、ホールに残って職員と談笑されている利用者の様子もみられ、それぞれのペースで過ごせるよう本人の意思を尊重した支援が行われています。長く入居されている方にとってホームは我が家であり、職員を頼れる知り合いと思うほど馴染んだ生活をされており、職員もその思いを大切に日々のケアに努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念を各階に見えるように掲示している又年度毎に各階で自分達の目標を作り掲示している。ミーティング等で話、想いを共有する。実践出来ているかどうかについては、月1回のミーティングにて話し合う。全てが実践出来ている訳ではない。	毎月目標の達成状況をミーティングで確認して次に繋げることができるよう利用者の理解に努め、その思いを大切にできる支援を心がけています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭り、イベントに参加するように心がけている。日常、買い物、理容所など利用している。	近隣との交流は少ないものの、近所の床屋やスーパーに出かけて交流の機会をつくっています。ホームの夏祭りは利用者と一緒に案内を配布し、地域住民とボランティアの演芸等を楽しみ、賑やかに開催されました。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議を行い、利用者の状況の報告を行っている。又、広報の配布をしたり、夏祭りを開催したりしてホームの状況を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容をミーティングの時に伝え話し合い、サービスに繋げている。	会議はホームの現況を報告し、参加者からの質問に答える形で進められています。	ホームの役割や地域との関係等に参加者が積極的に関わられる機会となるよう進行の仕方を工夫し、会議を運営に活かしていられることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域のケア会議に出席したり、行政と色々な面で関わっている(長寿福祉課、生活保護担当他)	更新時や生活保護受給者の対応等、必要に応じて連携されています。グループホーム管理者の会議には包括支援センターの参加があり、情報交換が行われています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のケアや、ミーティングの時など身体拘束について話し合いの場を設ける。具体的な行為についても話し合う。危険防止の観点から2階の玄関には施錠している。	ミーティングや申し送りの際に業務を振り返り、対応を検討されています。建物の構造上、死角となる箇所にはカメラを設置してモニターで管理されている他、急な階段の転落防止のための扉に施錠をしています。	止むを得ず行っている場合、アセスメント記録等の諸記録を整備されることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束、虐待についてはOJT,OFFJT、ミーティングの時に学んだり、話し合いを行う。日々、注意をよびかけ、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会へ参加学ぶ機会を設けている。又、実際に活用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の契約時、退所の時には十分な説明を行っている。又、不明な点、要望についても伺う機会を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに来られた際に、会話の中からくみとったりじかにご意見を伺ったり、要望等を伺ったりしている。運営推進会議の時に家族代表として出席していただき、意見を頂戴している。	面会時に意向を汲み取ったり感じたことを職員間で話し合い、サービスの向上に繋げていけるよう努めています。家族との会話は面会ノートに記録として残しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングの時に意見等を述べてもらっている。意見や提案等は全てとはいかないが意見に添えるように心がけている。	代表が毎日ホームを訪れており、職員の意見は直接或いは管理者を通じて伝えられ、反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者に管理者から職員の頑張り具合などについて報告している。各職員の事情なども考慮し急な勤務の変更、有休休暇など、なるべく希望に添えられるように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職員初任者研修については、会社で資格の取得の支援を行っている。OJT,OFFJTIについても学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	湯沢市のグループホームの管理者の集まりが2か月に1回あり、情報の交換など行っている。職員は講演会に参加したり勉強会に参加したりして自身の質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームに入所の前見学や面会から関わりを持ち希望、要望などに対応している。入所されてからも安心して暮らしていただけるような声かけに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時、希望、要望等を伺っている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事をしたり、共に何かを行ったり、世間話をしたりと、一緒に生活している関係を築いている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や外出、外泊など家族との繋がりを大切にしながらホームで生活していただいている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの床屋、受診先、など続けて利用している又、親類の方や友人などの訪問にも対応している	ホームの夏祭りや行きつけの床屋の利用を通じて馴染みの人との関係が保てるよう支援されており、お盆、お正月に帰宅される方もあり、家族との関係性も途切れないよう支援されています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の利用者同士の関係を把握し、個々に安心して暮らしていけるような配慮に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された家族の方と外で、すれちがった時などは、挨拶等に努めている。家族より経過などの報告を受ける時もあり対応に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1年に2回、希望、意向の把握の聞き取りを行っている。日常生活の中から把握できる事もあり。	自分の思いを表現できる方、できない方共に日々の関わりの中から知り得たことや気付いたことを生活リズムシートに記入して共有し、介護計画の見直しに繋げています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ホームに入所される以前の生活歴やサービス利用の経過等を記録された物に目を通して把握に努める		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所されてからご本人の出来るところ、出来ない事等を生活の中から把握していく。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人が、安心、安全に生活される為に介護計画書に本人、家族の意向を聞き取りし、反映させていく。モニタリングを行い現状に即した計画書を作り、望む生活に繋げていく。	面会ノートや生活リズムシートをモニタリングに活用し、利用者、家族の意向を介護計画に反映させています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録の用紙に記録された内容を読み職員で情報を共有していく。ミーティング、モニタリングを行い、介護計画の見直しをしながら実践にいかしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の床屋やスーパーなどに出かけたり、希望で外食に出かけたりされる。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、本人、家族の要望に沿ってかかりつけ医を決めている。かかりつけ医、かかりつけ歯科、かかりつけ薬局等と連携をとりながら適切な医療を受けられるように支援している。	入居前からの医療機関で継続受診されています。入居時に近くの協力医に変更された方もありますが、それぞれの医療機関で受診時の交流を楽しみにされています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームに看護師はいないので、特に緊急時や夜間などは救急外来の看護師に状況を話し指示を受ける。適時、適切な受診に繋がるように努めている		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、退院時は医師、看護師、ケースワーカー、家族、ホームとで今後についての話し合いの場がもたれる。計画に変更等があった際には連絡あり情報をいただく。ホームの要望なども伝える。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、看取りを行っていない事を伝える。又医療的な処置が必要となった場合には退所となる事を伝える。しかし、自分達で出来る範囲の事は行い、ホームでの生活を支援していく事を伝える	ホームでは看取りに対応できないため、他施設への移行支援を行いながら可能な限りホームで生活できるよう支援することを伝えていきます。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1年に1～2回、全ての職員が救命講習を受けている。AED設置しているが使用の仕方についても指導を受ける。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については消防署立ち合いにて年2回の避難訓練を行っている。日中、夜間を想定して行う地域の消防団も参加あり。緊急連絡網を作り全職員に連絡をいれる。水害対策としてマニュアルを作り水害時には避難する事としている。消防署の署員より運営推進会議時、地域の水害について話していただく	コンセントの周辺等、毎日防災チェックを行っています。段差のある箇所にはスロープが設置されていますが、通行に障害となるものが置かれている箇所があります。	職員の連絡体制、2階からの避難方法、避難通路及び一時避難場所の確保、協力者の具体的な役割等の対策を再検証し、安全に避難できるよう検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけに気をつけるようにしている。又、一緒に生活している方々として捉え、更に目上の方々に対する対応の仕方を行っている。	個々の利用者に向けた言葉遣いや対応の仕方を職員が理解できるようミーティング等で伝え、理念に沿った支援に繋げていけるよう心がけています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人と話をして希望を聞いたり、選んだりしていただいている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく利用者の希望に添えるように心がけている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際、職員と一緒に服選びをしたり、服を買いに出かけたりする。季節に合わせて衣替えの手伝いをする。髪が乱れていたり、服が汚れていたり、ほつれていたりしている時には交換、又は直したり手伝う。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事の支度を行っている。食事の前には献立の話をしたり食事に対してワクワク感を感じていただく。好みの食事の提供や行事食、その季節ならではの献立を考え提供している。片づけも一緒に行っている。	食材の買い物、盛り付け、後片付けを職員と一緒にを行っています。適度の量で食べやすく盛り付けられ、急かすこともなくそれぞれのペースで食事をされています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事の摂取量を把握している。食事の量水分の摂取量は記録で把握していき、体調の管理に繋げていく。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけにて食後、歯磨きしていただく。職員が見守り、介助等、行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間で声かけや誘導を行う。夜間、ポータルトイレを使用する方もおられる。夜間についても声かけてトイレ、ポータルトイレを使用していただく。	チェック表を活用することで失禁が減少し、本人の自信に繋がっています。職員も自立に向けて努力されています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事を作る際に便秘に良い材料など考えて作るおやつに関しても、寒天など取り入れている。特に便秘気味の方に対しては色々と考えている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の際は、その日の様子やバイタル測定を行い入浴していただく。一応、順番に入浴していただくが希望の方が、おられれば、入浴していただいている。	週2～3回入浴されています。毎日入りたい方や拒否される方もあり、その時々状況に臨機応変に対応されています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の1日の生活のサイクルは把握しているつもりだが、その日の体調などによって眠かったり、疲れておられるような時には声かけ少し休んでいただく。又、暑いとき、寒いときなども含め心地良く休んでいただけるよう心がけている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に服薬されている薬の内容や副作用について理解に努めている。薬についてわからない時は薬局に問い合わせたり、病院に問い合わせたりし、指示を受ける事もあり。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る事や好きな事、得意な事柄を把握し生活の中に取り入れれたり計画したり気分転換等の支援をしている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望、要望に添って外出支援を行っている。又、季節毎に行っている催し物などにも出かけている。お盆、正月など自宅に帰られたりお墓参りなど家族の方の協力をいただいている。	冬は外出の機会が少なくなることから、様々な種類の花見や観劇に出かける等、冬以外の季節の外出行事に積極的に取り組まれた他、家族の協力を得ながら個別の要望に応じた支援もされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全ての利用者に自身の、お金はホームでお預かりしている事を伝えて安心に繋がるようにしている。 希望に応じて個々に、お金を持っておられる方もいる。自身の買い物時に持参し使用される。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話したい時など、希望に応じている。荷物が届いたり、お小遣い金が送られて来た時など電話されている。又、手紙や、送り物など利用者から頼まれた時にはホームで支援している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者からの希望に応じて花や鉢植えを置き目で楽しんでいただいている。暑い、寒いなどは職員のほうで利用者に向けて調整している。居心地良く過ごされているかどうか、様子を見ながら対応している。又、異食行為のある方の周囲には異食に繋がる物を置かない事としている。	ホーム内は臭いがこもらないように気を配り、廊下の随所に休憩できる場所を設けている 他、2階にはカラオケやテレビを楽しむ一角が設けられ、既存の建物を上手に利用されています。場所による温度差は時間帯によって管理されています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内に椅子などを何か所かに置き、気分の転換をはかれるよう支援している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自身の部屋には、自宅で使い慣れた物品を持参していただいている。	利用者の動きを考慮した位置、向きに物を配置し、暮らしやすい配慮をされています。床に布団を敷いて休んでいる方もあり、利用者の思いに沿った生活環境がつけられています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自身の部屋の前には表札を掲げている。廊下には、手すりを取り付けホーム内はバリアフリーとなっていて安全に配慮している。又、トイレ、風呂場などわかるように名称を掲げている。		